

永久脱毛

知っておきましょう！脱毛の事。

昔は、「絶縁子」と言われる（今でも使っている施設はあります）、ニードルと呼ばれる小さな「ハリ」を、毛穴（毛包内）に挿入して、先端に、「アリカリ」と「熱」を加えて、毛の幹細胞を熱変性させて、「永久脱毛」を行っていました。

ただ、この「脱毛法」は、「痛い」との「技術者」によって、「差」が出る、と言う難点もありました。

そこで、開発されたのが「レーザー脱毛機」です。

まあ～初めは、レーザーは黒色素に反応するので（実際には色素斑の除去に使われていましたので）毛根の黒色素にも反応するんじゃないか？！と言う事から始まりました。だから、当初は、「紆余曲折」で、「火傷」がおこったりして、失敗の連続でした。

ルビーレーザーは、もともと「色素斑除去」しか使えなかったけど、脱毛に応用して「火傷」の連続。

次に開発された、Y a g（ヤグ）レーザーは、レーザーの色素反応が今一つ分からずに、結局の所、開発者が「永久脱毛は出来ません！」と発表する始末。

特に、シングルパルスのY a g レーザーは、脱毛効果はほとんど発揮しません。



シングルパルスのy a g レーザー脱毛機

そして、開発されたのが「アレキサンドライトレーザー」と「ダイオードレーザー」を使った、脱毛機。

アレキサンドライトレーザーは、そこそこの「脱毛効果」を発揮しました。

しかしながら、「軟毛（産毛）」には難しく、結果を出そうとすると、かなりの冷却をする必要があり、肌を別の冷却装置で-10度くらいの、超冷風を吹きかけなくてはなりません。

これが、脇くらいの狭い範囲なら我慢も出来ますが、広範囲となると「寒い！」



次に、ダイオードレーザー脱毛機。

有名なのは「コヒレント社」の「ライトシェア」という名称の機械。

この機械は、レーザー照射口を大きくして、そこに「患部冷却装置」を設置。

それによって、「冷風」を肌に吹き付ける事なしに、肌を-1度前後に冷却。

ある程度の、熱エネルギーを照射しても「火傷」になる心配がなくなりました。

尚、この機械は米国FDAから「permanent hair reduction」(永久的な減毛)の認可を受けたレーザー脱毛器としての認可を受けている唯一の脱毛機です。

その後、光脱毛機が開発されました。

当初は、光の特性が良く分からずに脱毛効果を満足ゆく結果がなかなか得られませんでした。

ちなみに、光を照射するハンドピースと呼ばれるものが1つしかない光脱毛機は、フェイシャルと脱毛をそれぞれ1本で、兼用しており、この場合は脱毛効果に満足ゆく結果は得られません。

もともと、フェイシャル用は波長が530nm~からの物が多く、その波長では脱毛が出来ないのです。

ですから、最低でも「フェイシャル用」と「脱毛用」と2本のハンドピースを備えていない脱毛機は、この時点で、「脱毛効果」がありません。

さらに、光脱毛機が出回った段階で、やはり「冷却装置」がない為に「火傷」の被害が多く出ました。

冷却ジェルを皮膚に塗布して、肌を冷やす行為をいくらしても、ハンドピース先端が照射の度に、熱を帯び数十発の照射を繰り返すと、先端が熱くなり「火傷」が頻繁に出ました。

そこで、開発されたのが「患部冷却装置付き脱毛機」です。

コヒレント社の「ライトシェア(ダイオードレーザー脱毛機)」と同じ要領です。

この「冷却装置」の代わりに「冷風機」で冷たい冷風を当てても、また「冷却ジェル」を塗布しても、「患部」を「直接」「冷却」する行為には勝てません。

この機械の出現によって、「高エネルギー」での照射をしても「火傷」のリスクがほとんどなくなりました。

「高エネルギー」が、皮膚に照射できるという事は、「色黒肌」でも「脱毛効果」を発揮できるし、「軟毛(産毛)」にもある程度の効果を発揮するという事です。

昨今、色々な脱毛機が出回り、それらの機械を使って色々な脱毛を行う施設(サロンも含めて)が出ています。

安い広告に飛びついて、脱毛効果のほとんどない施設に何年も通う・・・

いつまで経っても、「気が減らない」・・・

そんな、悲しい事にならないように・・・

しっかりとした「目」で、見て考えて下さい。